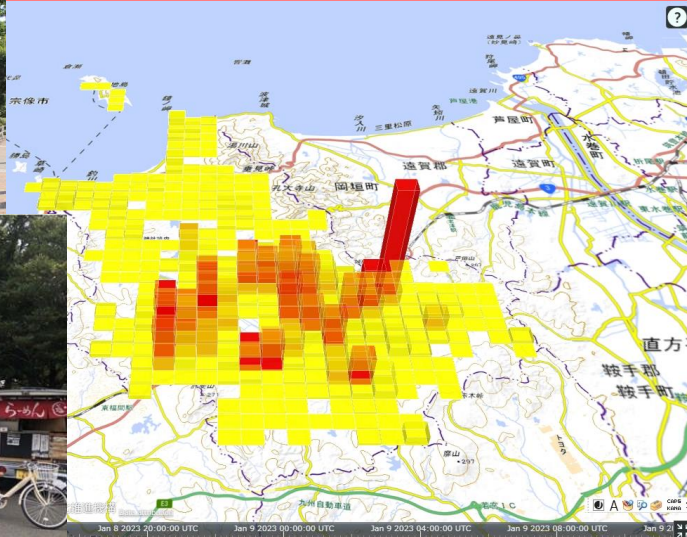


住宅団地再生事業

～コロナ禍の買い物難民×可視化活用～



補注：都市構造可視化計画（国土地理院地図を使用）

宗像市 都市再生課

1. 宗像市

宗像市の概要

豊かな自然に囲まれた宗像市は、福岡市と北九州市から約30キロ圏内に位置し、交通アクセスに恵まれた良好な住宅都市として発展してきました。



- 人口 97,306人 (令和4年12月31日現在_住民基本台帳)
- 世帯数 44,541世帯 (令和4年12月31日現在_住民基本台帳)
- 面積 119.94 km² (令和4年12月31日現在)
- 都市計画区域 10,990 ha (令和4年12月31日現在)
(市街化区域 1,876 ha、市街化調整区域 9,114 ha)

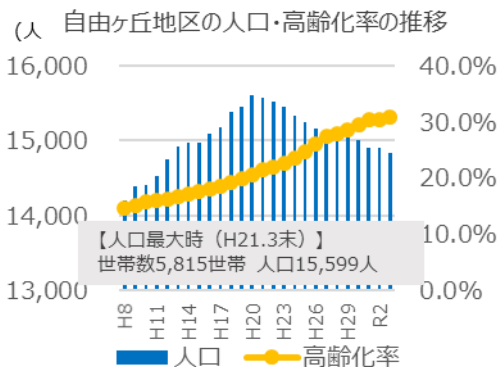
補注：宗像市HP
(<https://www.city.munakata.lg.jp/w001/050/010/0060/201501270779.html>)

2.事業概要

ショッピングモビリティ実証事業

宗像市では、将来にわたって住み続けられるまちづくりを目指し、官民連携による住宅団地再生事業に取り組んでいます。その一環として、今回は、自由ヶ丘地区の住民の高齢化や商業施設の偏在に伴う対策や、コロナ禍の日々の暮らしをより豊かにすることを目的とし、公共空間に様々なサービスを提供することが出来る車両（ショッピングモビリティ）が出店する社会という概念について実証事業を実施しました。実施にいたるまでの説明資料として都市構造可視化計画等を用いたので、ご紹介します。

自由ヶ丘地区【概要】



3.活用①庁内

実施場所の検討（KMLデータ）

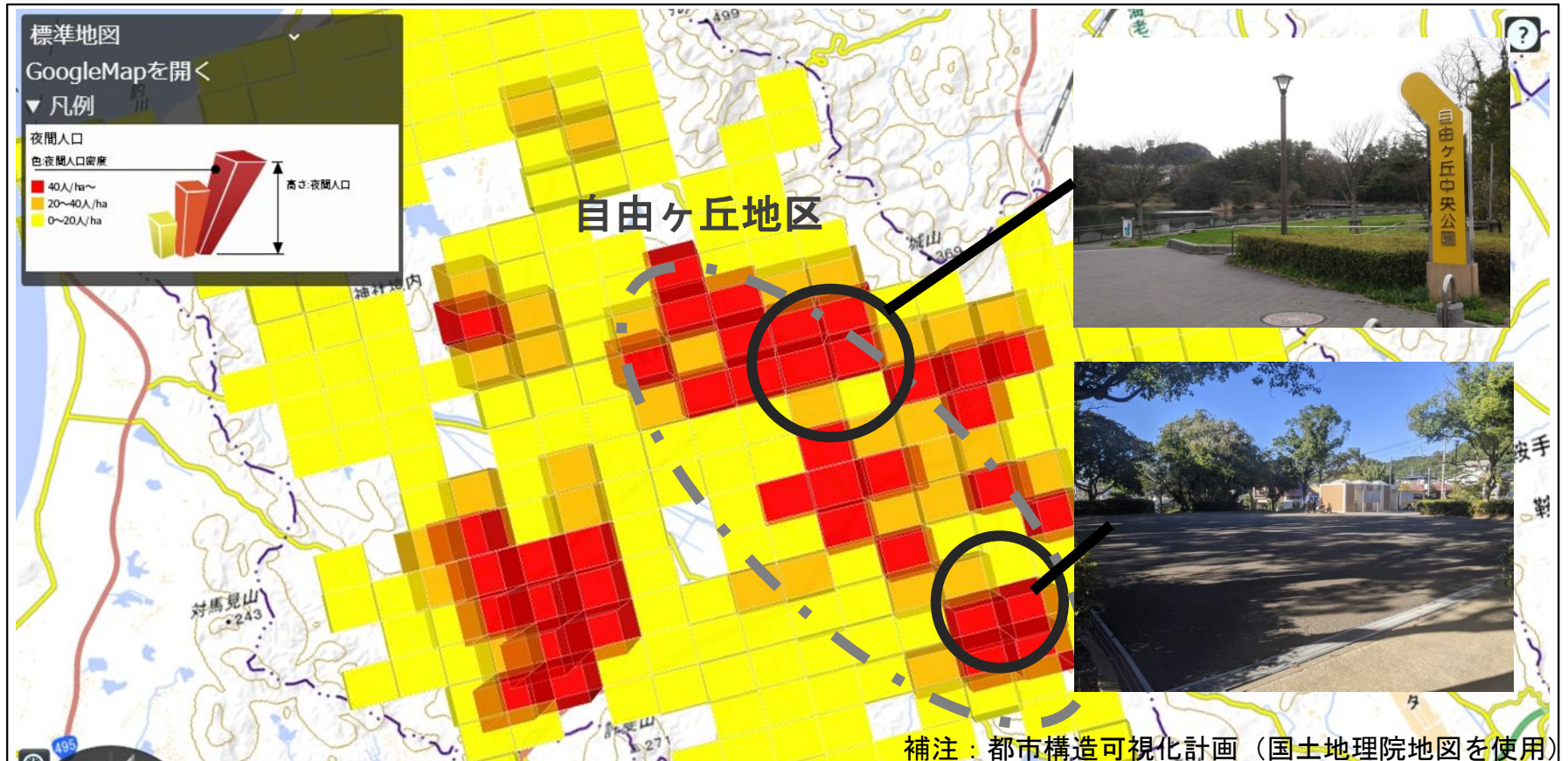
自由ヶ丘地区の公共交通利用圏のKMLデータを可視化



⇒実証すること、場所は自由ヶ丘地区の南側を優先することを決定しました。

4.活用②地元

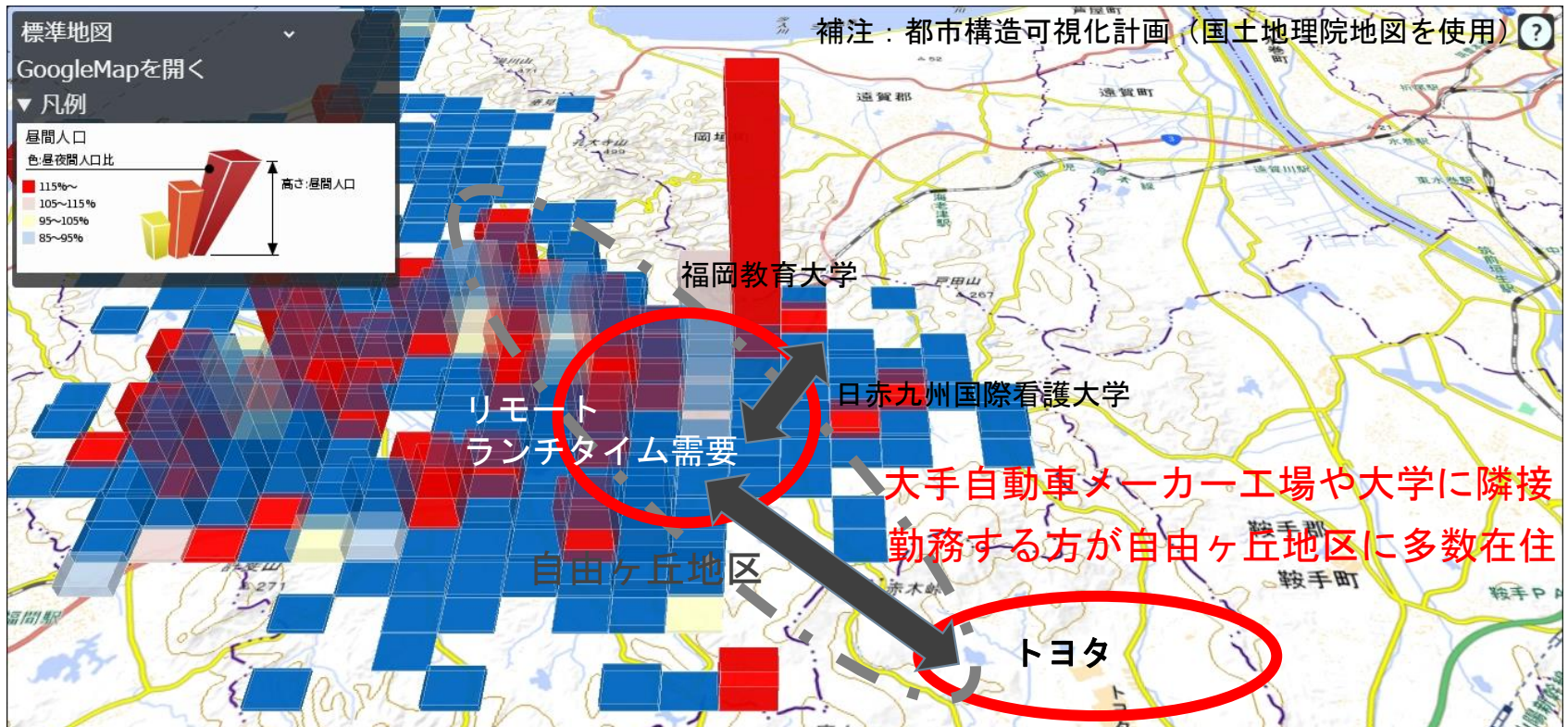
より多くの方に利用してもらうには（人口密度）



ショップモビリティによって、地区の課題にあった『公園の賑わい創出』につながる。
⇒人口密度の高い区域にある公園（2会場）で実証することを地元説明会で合意しました。

5.活用③出店事業者

営業時間の決め方（昼間・夜間人口比）



自由ヶ丘地区はコロナ禍のリモート授業、リモートワークにより、データ取得時（2015年）と比較して昼間人口が増えている可能性が高い。また、夜間人口に大きな変動はない、と考えました。

「まずは長時間営業ではなく、昼間のみ実施し、営業利益を増やしましょう。」

⇒事業者と合意しました。

6.まとめ

事業実施結果



(左) 中央公園 (右) 近隣公園「ショップモビリティ事業」の様子。計12回実施、利用者アンケートでは利便性が向上と感じた人の割合が9割を超えました。

(1) 来訪者数
2, 550人 (月別内訳: 10月1,100人、11月700人、12月750人)

(2) 利用者アンケート結果

- ・ 利用者の年代に特定の偏りは見られず、多くの世代にご利用いただいた。
- ・ 会場までの移動手段は、70%が徒歩でした。
- ・ 2会場の売上合計額が100万円超えました。

期待した結果が出ました

可視化計画活用してみた結果

なんとなく多いと思う
たぶん少ないと思う... } 曖昧な予測を

可視化することで、対象者に具体的根拠を示して、事業の必要性を説明することができ、意思決定が円滑になりました。

■「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群

日本列島と朝鮮半島を結ぶ海域に位置する沖ノ島では、古来、航海安全の祈りが捧げられてきた。祭祀跡からは約8万点もの奉獻品が出土、そのすべてが国宝に指定されています。立ち入りを許さない厳格な禁忌は、500年間にも及ぶ古代祭祀の跡をその後1000年以上手つかずの状態を守り伝える。沖ノ島に宿る神を崇拝する伝統が今日まで継承されてきたことを物語る稀有な物証として、2017年7月にユネスコ世界文化遺産に登録されました。

本遺産は、沖ノ島に宿る神への信仰を起源とする宗像三女神をお祭りする宗像大社三宮（沖津宮、中津宮、辺津宮）、遙か彼方に沖ノ島を望む大島の沖津宮遙拝所、信仰の伝統を築いた人々が眠る新原・奴山古墳群で形成されています。



沖津宮遙拝所



沖ノ島



みあれ祭

■豊かな水産資源・農産資源

県内最大規模の鐘崎漁港をはじめ4つの漁港があり、年間50tを水揚げする「鐘崎天然とらふく」、県内水揚量1位の「宗像あなごちゃん」のブランド魚を有する。市内の離島・地島の上質なわかめは「献上わかめ」として宗像大社を通じて、毎年、皇室へ献上されています。

農産物は、米・麦・大豆の栽培に加え、イチゴ（あまおう）、柑橘、イチジク、むなかた牛、むなかた鶏などが特徴的です。

新鮮な農水産物を販売する「道の駅むなかた」は年間170万人が来場する九州トップクラスの人気・売上をほこっています。

